

令和7年度自己評価結果公表シート

学校法人太田学園

認定こども園 ふじみ幼稚園

1 園の教育目標

『身近な自然環境に触れ、友だちと仲良く遊び、思いやりの心を持ち、生きる喜びをはぐくむ。』を、教育方針とし、以下の7つを教育目標としている。

- 1, 健康で明るく 元気なこども
- 2, 自分のことは 自分でできるこども
- 3, 他人の話をよく聞き 自分の考えをはっきり言えるこども
- 4, 友だちと仲良くあそび 協力できるこども
- 5, 何でもよく見 よく考えるこども
- 6, 情操の豊かなこども
- 7, のびのびと表現し 喜んで想像するこども

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施し、教育保育の質を高め、保育教諭自らが客観的に自園を見る目を養い、保護者のニーズを確認することで、本園としてのビジョンを明確化し、認定こども園が今後担う役割について検討することを重点項目とする。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組内容
認定こども園の教育保育要領の精神を踏まえ、園の教育保育理念、教育保育方針に従い、子どもの実態などをもとに教育保育内容を考えて、指導計画を作成している	毎月、学年毎に職員間で話し合い指導計画を立てている。教育保育要領に沿って、子どもの実態に即した内容にするように努めている。また、日々の記録を参考にして子どもの実態を把握し、日案の作成に反映させるようにしている。また、その都度子どもや状況に合わせて、指導計画を立てて柔軟に対応し実践するようにした。
子どもの実態を的確につかみ、保育の在り方や幼児への対応などを、学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する	学年毎に子どもの実態に合わせて、月や週のねらいを定め、学期ごとに達成状況を報告するよう努めている。また、その成果と課題を次の学期に反映させるようにしている。保育室はパーティションを付けたり外したりして合同教室にもできるため保育内容の幅が広がり、合同保育をしたり、他のクラスの友だちや保育者との関わりも分け隔てなく柔軟に行えるようにしている。
保育者としての資質や能力、良識、適正など、教育保育の質の向上のために園内研修を充実させる	今年度の園内研修は、「職場内ハラスメント」についての研修を受け、職員同士の信頼関係の構築やチームワークの向上に努めた。また、幼児の発達の姿をとらえるため定期的に職員間での意見交換をし、互いの保育を見合うことによって、職員の質の向上を図っている。日々のミーティングでは、子どもの姿について自由に意見交換できる環境を作っている。
子育て支援活動の取り組みや、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る	今年度から子育て支援事業も始め、未就園児が親子で遊べる場所の提供や、親子で楽しめる活動の企画、同じ年頃の子供を持つ保護者同士のコミュニケーション作りの場所の提供等に取り組んだ。新たに2歳児プレスクールを行い、週2回通園し少しずつ園生活を経験することで、自立や集団生活に向けてのステップとしての支援活動も行い、子育て支援の充実を図った。また、在園児の保護者とのコミュニケーションも大切にし、送迎時にその日の様子を伝え、保護者の要望や苦情等へも適切な対応を心がけ、保護者の不安を取り除くようにした。改善が必要な時は園で話し合い、改善に向けて取り組むようにしている。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

幼稚園型の運営だけではなく保育園型の運営も伴うため、職員間での共通理解をし、保護者の気持ちに寄り添った教育保育を目指している様子が見られた。保育教諭みんなでこども一人ひとりに向き合い教育保育をすることで、さらに充実した実践ができるように、教育保育の改善・向上に努めていかなければならない。特に支援の必要な子どもに対する対応については、時間軸での支援を踏まえた上で、必要な場面での支援への置き換えをすることで、それぞれの子どもに合った自立に向けての的確な支援を行い、集団生活における個性の安定した調和が図られた。今後も研修等を通じて個々の芽を伸ばすよう教職員の資質向上に努めたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	子どもの育ちにふさわしい保育が、園を取り巻く環境や子どもの姿、またインクルーシブ保育に即して計画し、「やりたいと思わせる保育」を目指して見通しを持った指導計画を立て、今後も日々の反省と評価を生かした指導計画の編成に努めていきたい。
特別支援教育	引き続き、支援が必要な子どもに対し、一人ひとりのニーズに合わせた個別指導計画の作成を検討するとともに、関係機関との連携をとり、園児が無理なく穏やかに園生活を送れるようにサポート職員を配置し、徐々に個別支援から集団生活での支援に向けて援助していきたい。また、今後も盛岡市子ども発達相談巡回訪問支援を受け、職員間で支援が必要な子の理解をさらに深めていきたい。
子育て支援活動	支援事業活動が周知されてきて、参加者が増えてきている。今後も参加者との関わりを深め、子育て支援相談に対応したり、ネットワークを広げていけるように働きかけをしていき、活動内容の充実を図るようにしていきたい。また、今年度から始めた2歳児プレスクールに入会していた子どもの成長が著しく保護者に喜ばれたため、今後も力を入れていきたい。
保護者との対応	保護者との会話の中で、子育て中の保護者が期待する認定こども園像を把握し、求められる認定こども園の姿を確認したり、保護者の不安を取り除けるように心掛けていきたい。また、子どもの様子をこまめに伝えていく中で、子どもの良いところ、頑張っているところ、成長したところを伝えつつ、個々の成長に必要なかかわりを共有していくようにしていきたい。
安全管理	今後も日々生活する園舎や、子どもたちが使う遊具や玩具の安全管理についての確認をし、子どもたちが安全に安心して過ごせるように、常に気を付けていきたい。また、園舎内外において不審者が現れた時、また火災や地震等の災害が起きた時等、園児を守るための自分の役割や対応を改めて把握したり、危機管理マニュアルの確認をして、園児の安全な生活を保てるようにしていきたい。

6 学校関係者の評価

【PTA 役員の方々からご意見を頂戴いたしました。】

Good：園の素晴らしいところ・感謝している点

現在の園の体制や先生方の関わり方に対し、非常に高い満足度と感謝の言葉が寄せられています。

① 先生方のきめ細やかな対応と安心感

個により添う保育：子どもたちを本当によく見てくださっており、些細なことでも連絡をくれ、親身に相談に乗っていただけるため、日々安心して預けられています。

迅速な危機管理：先日の地震の際、園に残っている子どもの安否連絡が非常にスピーディーで、多くの親御さんが救われ、大きな安心感に繋がりました。

時代に合わせた柔軟性：「昔ながらのやり方を徹底する園」という過去のイメージから、最近は良い意味で「変化」しており、親の感覚や今の時代に寄り添って対応してくれていると感じます。

② 小学校への接続を見据えたカリキュラム

自然な学びの動機付け：50音や時計の読み書きを「お勉強」として強制するのではなく、制作物などに混ぜ込んで自然に興味を引くように教えてもらえるのが大変ありがたいです。（家庭だけではなかなか興味を持たない子が、園のおかげでスムーズに学べていると大好評です）

多様な体験：さんさ踊り、なわとび、ピアノカなど、小学校の生活や行事に繋がる活動にしっかり取り組ませてくれる点に感謝しています。

③ 行事の満足度の高さ（運動会・発表会など）

短い時間（タイトなスケジュール）の行事であっても、子ども一人ひとりの出番がたくさん確保されており、非常に見応えがあります。先生方の日々の熱心なご指導が伝わってきます。

【意見・要望】

More：これからの変化に対する期待・共に進めたい点

今回の集約では「不満」としての改善点は一切出ず、「これからの新しい変化を園と一緒に良くしていきたい」という前向きな意味での More が集まりました。

① 新しい「ボランティア制」の円滑な立ち上げ

対話と歩み寄りの期待：保育園との統合に伴い、役員や保護者の負担を減らす方向（ボランティア制への移行）へ園側が理解を示してくださったことに、まず深く感謝しています。

これからの進め方：今年度から始まったボランティア係はまだ未知数な部分もあります。

「良いところは残しつつ、改善すべき点は園とPTAでお互いに歩み寄りながら、子どもたちのために協力して一歩ずつ進めていきたい」という前向きなスタンスでいます。

新入園の方や、新しく役員になった保護者もまだ手探りの状態ですので、ぜひ園側とも密に

情報共有をさせていただきながら、無理のない持続可能な形を作っていければ幸いです。

今回 PTA 役員の皆様におかれましてはご多忙のところ、たくさんのご意見ありがとうございます。頂戴したご意見をもとに引き続き PTA 役員の皆様と協議を重ねながら改善を図りたいと思いますので今後も保護者の皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。